

# 「交通安全意識の向上を目指して」 ～身の回りの課題を見つけ、自ら解決できる生徒の育成～

令和3年度 高知県学校安全総合支援事業（交通安全）

高知県教育委員会 拠点校 高知県立須崎総合高等学校

## 拠点校の取組

### （1）拠点校の目標

本校の通学路は主に車の行き違いが困難な住宅街の狭い道路を利用している。列車通学生は最寄りのJR大間駅を利用し、県道388号を渡り住宅街へ進入する。自転車及び原付バイク通学生は県道388号及び県道に沿った沿線道路を利用し、住宅街へ進入する。最終的に学校へ登校する1本の坂道に集中し、その坂道も狭く、蛇行している。

開校以前から通学路の問題は継続課題で、特に朝の通学時間帯は地域の方々の通勤時間帯と合わせて、保育園・小・中学校の児童生徒の登園、登校時間と重なるため混雑する。このため、通学路を利用するにあたり、歩行者、自転車、原付バイク等の通学マナーの意識向上や交通ルールを守る意識を持ち、交通事故を防ぐことが大きな課題となる。

一方、万が一事故にあった場合、自分の命を守るためにも、自転車通学生のヘルメット着用が大きな課題となっている。本校では、PTAの支援を得て、ヘルメット購入金額を助成（2,000円）することで、県の助成と併せて個人負担がないようにしているが、自転車通学生のヘルメット着用率は、これまで8%程度にとどまっている。昨年度の取組で、ヘルメット着用推進週間を実施したが、期間中は着用率が30%程度に上昇するも、取組が終了すると元に戻るという状況である。

これらの点を踏まえて、安全教育推進事業（交通安全）取組組織の構築や交通安全教育の必要性を認識し、自ら考えて行動する意識の向上及び判断力を養うことを目指す。また、拠点校の取組を地域全体で共有する事業を実施していくなかで、生徒が交通安全に対して主体的に取り組む態度の育成を目標とする。さらに、そういった態度を育成するなかで、自分の命を守るために、自分から進んでヘルメットを着用する生徒を増やし、着用率が常時50%以上となることを目標として掲げる。

### （2）安全教育の充実に関する取組

#### ① 高知県高校生ヘルメット着用推進シンポジウム

県内8校の代表生徒に集ってもらい、各校の現状を踏まえて課題を共有し、連帯意識を持って取組が進められるようにシンポジウムを開催した。シンポジウムでは、東北工業大学の小川教授を外部有識者として招き、講演やパネルディスカッションでの指導助言等、専門的知見の活用を図った。

当初は県内多数の高校に参加を依頼する予定であったが、新型コロナウイルスの感染防止対策のため、8校に絞っての開催とした。また、観覧者も、中学生や地域の方等、多数を招待することができなかったが、交通安全教育実践委員会のメンバーをオブザーバーとして招待でき、充実したシンポジウムとなった。

小川先生からは、高校生の活動は世間を動かす力があるとの言葉をいただき、高校生達は、楽しくヘルメットを被る方法について意見を出し合った。ここでの話し合いから、高校生によるヘルメット啓発の共同街頭活動が実現した。



写真1 高知県高校生ヘルメット着用推進シンポジウム

## ② スケアード・ストレイト教育技法による自転車交通安全教室の実施

本校グラウンドで、自転車交通安全教室を実施した。スタントマンが実際の事故の再現を行い、参加者に事故の危険性を視覚的に体験してもらった。恐怖を実感することで、それにつながる危険運転を未然に防止し、交通ルールの大切さを学ぶ取組となった。



写真2 スケアード・ストレイト教育技法による自転車交通安全教室

## ③ 原付バイク安全講習会・自転車安全講習会の実施

本校は、通学が不便な地域の生徒に対して条件を定め、原付バイクによる通学を特別に許可している。原付バイクによる事故を未然に防ぐため、原付バイク安全講習会を4月に実施し、原付バイク通学生以外は、同日の同時時間帯に、自転車ヘルメットの着用指導を中心に自転車安全講習会を実施した。



写真3 原付バイク安全講習会

## ④ みやぎ高校生サイクルサミット2021への参加

宮城県が主催した「みやぎ高校生サイクルサミット2021」がオンラインで開催され、本校の交通安全推進委員2名が参加した。2名は、本校のこれまでの交通安全の取組を発表し、宮城県の高校生と情報交換することで、自分たち以外にも自転車ヘルメットについて活動している高校生がいることを知り、励みになった。



写真4 サイクルサミット  
(オンライン開催)

## ⑤ 交通安全新聞の発行

交通安全推進委員による交通安全新聞を発行し、学校ホームページに掲載するとともに、学校家庭連絡システム「すぐる」を使って生徒、保護者、教職員に配信した。

今年度は、自転車ヘルメットの着用問題に絞って紙面を構成した。紙面では、ヘルメット着用生徒のインタビューや交通安全推進委員の取組、本校で開催されたシンポジウムなどについての紹介を行った。自校の生徒や保護者、教員に対して、ヘルメット着用に関する課題の共有と、取組への理解・協力を求め、交通安全に対する意識の向上を図った。



写真5 交通安全新聞

## ⑥ 交通安全講演会の実施

自転車ヘルメット着用の必要性・重要性を理解させるための講演会を開催した。講師には、自身の子どもがヘルメットの着用のないまま交通事故に遭い、一時意識不明の重体となった経験を通して、母親目線でヘルメットの重要性を語ってもらった。ヘルメットを着用することで、命を失うリスクを大きく減らすことができることを理解させ、自発的にヘルメット着用に向けて行動するきっかけづくりとした。



写真6 交通安全講演会

## (3) 安全管理の充実にする取組

### ① 自転車ヘルメット着用推進週間の実施

今年度は、ヘルメット着用推進週間を5回実施した。下表は、ヘルメット着用人数と着用率の推移である。6月の網掛けの部分、雨天時で、自転車で登校する生徒が少なく、着用率も低くなった。7月、9月は、気温が高く、蒸し暑い日が続き、着用率が20%を下回った。ヘルメット着用については、罰則がなく、新たに着用者を増やすのが難しい状況にあるため、10月には新しい取組として「ヘルメット着用キャンペーン」を行った。強制ではなく楽しくヘルメットを着用する習慣をつけるため、3人1組でチームを作り、着用ポイントを競いあった。ポイントの多いチームや個人は表彰し、景品を贈呈するなど楽しい取組とした。この結果、10月の着用率は、初日以外は20%を超えるようになった。11月、12月と継続して続けていけば、もう少し定着していたかもしれないが、11月には「自転車ヘルメット着用啓発活動」などがあり、次に行うのが1月になってしまった。1月についても引き続き「ヘルメット着用キャンペーン」を行なったが、10月の着用率を超えることはできなかった。

着用率50%という目標を大きく下回り、ヘルメット着用に向けて、生徒の意識を変えていくことは簡単ではないが、ヘルメット週間を通じて、何人かの生徒が自らの意志でヘルメットを着用するようになってきた。継続して取り組むことが大切である。

表1 ヘルメット着用推進週間の着用率

実施日	6月				7月			
	15(火)	16(水)	17(木)	18(金)	12(月)	13(火)	14(水)	15(木)
着用数/台数	14/107	3/30	19/103	5/59	14/94	18/93	15/90	16/87
着用率[%]	13.1	10.0	18.4	8.5	14.9	19.4	16.7	18.4

実施日	9月					10月			
	27(月)	28(火)	29(水)	30(木)	1(金)	26(火)	27(水)	28(木)	29(金)
着用数/台数	11/73	5/50	15/90	16/90	14/85	11/85	21/87	19/86	22/90
着用率[%]	15.1	10.0	16.7	17.8	16.5	12.9	24.1	22.1	24.4

実施日	1月				
	24(月)	25(火)	26(水)	27(木)	28(金)
着用数/台数	13/84	13/82	19/96	20/93	20/91
着用率[%]	15.5	15.9	19.8	21.5	22.2



写真7 ヘルメット着用推進週間の様子



写真8 ヘルメット着用キャンペーン



## ② 高知県高校生自転車ヘルメット着用啓発活動

県内では、高校生のヘルメット着用率が思うように上がらないため、高校生に対してヘルメットの着用を訴えるとともに、県民の皆様にも条例を広く知っていただき、高校生のヘルメット着用に対する機運を高めるため5校が協力して高知市内（はりまや橋）で街頭活動を行った。この取組は、8月に本校で実施した「高知県高校生ヘルメット着用推進シンポジウム」において、本校の生徒が呼びかけを行ったことで実現した。

活動には、すさきすきキャラ「しんじょう君」にも協力を依頼し、自転車の高校生を中心にヘルメットの着用を訴えながら、ノベルティグッズの木製コースターを配布した。しんじょう君のヘルメットやノベルティグッズは本校の美術部、工業科の機械制御専攻、住環境専攻、造船専攻等、多くの生徒たちが協力して制作したもので、生徒たちの達成感や自己肯定感の向上にもつながった。

また、今回の啓発活動は、本校が交通安全推進の拠点校として、高知県高等学校PTA連合会や高知警察署、学校安全対策課にも協力を要請し、学校・保護者・警察・行政が連携して協力するモデルとすることができた。



写真9 高知県高校生自転車ヘルメット着用啓発活動の様子と配布したノベルティグッズ

## (4) 成果と課題

令和3年度の成果は、県内の高校生がヘルメット着用について、課題を共有し、連帯意識を持って取組を進められるようになったことである。8月に開催した「高知県高校生ヘルメット着用推進シンポジウム」では、県内の高校生が議論し、いろいろな発想やアイデアが発表され、今後の高校生の主体的な活動に繋げることができた。さらに、11月には「自転車ヘルメット着用啓発活動」を行い、高校生だけでなく、保護者、警察、行政も一緒になって活動するなど、交通安全推進の拠点校としての役割を果たした。

校内の取組では、図1のように、アンケートで91%の生徒が、交通安全に関する意識やマナーが向上したと答えている。昨年度は79%と、目標の80%に届かなかったが、今年度は目標を大きく上回り、継続的に取り組むことで、意識の変容が見られた。

課題は、自転車ヘルメット着用率の向上である。特に新入生については、中学校まではヘルメットを着用できていたので、高校でも着用する流れをどう作るかが課題である。

## (5) 今後の取組

自転車ヘルメットの着用については、これまでの取組を継続しつつ、違った角度のアプローチを考える必要がある。例えば、4月の自転車登録時にヘルメットのチェック項目を設け、自転車通学生は必ずヘルメットを所持していることを求め、着用の強制ではなく、自転車を乗る生徒はヘルメットを持っているという環境をつくることから始める。

また、今後もシンポジウムを定期的で開催し、取組に賛同してくれる他校の仲間を増やし、県内の高校生の自転車ヘルメット着用に対する意識を高めたい。そして、いずれは、「高知県は高校生の自主的な取組により着用率を上げた先進的な県」と言われることを目標にしたい。

「交通安全推進事業の取組を通して、交通安全に関する意識やマナーが向上したか。」

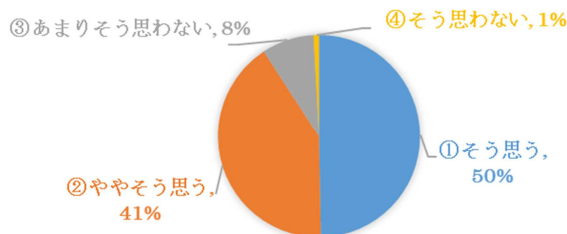


図1 交通安全推進事業に関するアンケート